

⑰公開特許公報(A) 昭62-12381

⑤Int.Cl.
H 02 M 7/48識別記号
F-7154-5H

④公開 昭和62年(1987)1月21日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全4頁)

⑩発明の名称 インバータ装置のパルス幅変調制御方式

⑪特願 昭60-151737

⑫出願 昭60(1985)7月9日

⑬発明者 岩崎 学 川崎市川崎区田辺新田1番1号 富士電機株式会社内

⑭出願人 富士電機株式会社 川崎市川崎区田辺新田1番1号

⑮代理人 弁理士 青山 葵 外2名

明細書

1. 発明の名称

インバータ装置のパルス幅変調制御方式

2. 特許請求の範囲

(1) インバータ装置におけるパルス幅変調制御方式において、出力周波数が所定値より高くなつたとき変調波を三角波からノコギリ波に切換えることを特徴とするインバータ装置のパルス幅変調制御方式。

3. 発明の詳細な説明

[産業上の利用分野]

この発明はパルス幅変調インバータ装置におけるパルス幅変調制御方式に関する。

[従来技術とその問題点]

パルス幅変調(PWM)により、パルス幅の異なる方形波を出力し、これをリアクトル等を用いて等価的に任意の周波数の正弦波電圧を発生させるいわゆる、パルス幅変調インバータは、低次の高調波を抑制できる長所を有し、比較的小容量のインバータ装置に用いられている。第3図はパルス

幅変調インバータ装置における従来のパルス幅変調制御部を示している。

マイクロプロセッサ1には、周波数設定器2からの電圧信号をV/Fコンバータ3により変換した周波数信号と、変調に必要な三角波発生回路4からの三角波と、過電流や過電圧を保護するための保護回路5からの信号、及びV/Fバターン回路6、トルクブースト回路7、加速時間設定回路8、減速時間設定回路9からの信号等が入力されていて、ROM(リードオンメモリ)10によるプログラムに従ってパルス幅変調の所定の演算が行なわれる。第4図は上述のパルス幅変調のタイムチャートを示していて、21は、周波数設定器2により設定された周波数による正弦波であり、例えばU相のみを示している。22は三角波発生回路4による三角波であり、両波形の交点であるa点、b点、c点、d点…がこのマイクロプロセッサ1により演算され、方形波信号23で示すように、パルスオン期間Ton=b-a、パルスオフ期間Toff=c-bがそれぞれ3相分求められ、出力タイマー回

BEST AVAILABLE COPY

路11に送出される。出力タイマー回路11からは時間出力U_t, V_t, W_tとして出力され、この信号は、オンディレイ回路12によりパルスU, V, W及びこのパルスの位相を180°遅らせたパルスŪ, V̄, W̄との6パルスとして出力され、このパルス信号はゲート信号として、3相インバータ回路に送出される。

上述した回路構成においては、正弦波21と三角波22との交点を各相毎に三角波22の1周期に2回づつ高速に演算する必要があり、インバータ装置を高周波領域で動作させようと思えば、前記演算を更に高速で処理しなければならなくなるので、従来より、低周波領域では上述したパルス幅変調制御を行い、高周波領域になると、パルス振幅(PAM)制御に切換えていた。ところがこのパルス振幅変調制御によるインバータ装置では、パルス幅変調制御のように第5次、第7次の低次高周波を抑制することができます、多くの高周波が流出し、電動機等に悪影響を及ぼしていた。

[発明の目的]

で説明した三角波による変調制御がなされ、設定周波数がROM14に書き込まれている周波数よりも高くなった高周波帯域ではマイクロプロセッサ1はノコギリ波発生回路13によるノコギリ波を取り込み、このノコギリ波を変調波として用いることにより変調制御される。

以下このノコギリ波による変調方式を第2図により説明する。

21はV/F変換器3からの正弦波であり、24は第1図におけるノコギリ波発生回路13によるノコギリ波である。この変調方式によれば、従来例のようにT_{on}, T_{off}を求める場合、変調波であるノコギリ波の1周期T_cはあらかじめわかっているので、正弦波21とノコギリ波24の交点は、f点、g点のように、ノコギリ波24の1周期T_c内で1回求めるだけでパルスオン期間T_{on}は求まり、パルスオフ期間T_{off}はT_{off}=T_c-T_{on}により簡単に求めることができ、マイクロプロセッサ1における演算時間は大幅に短縮される。これにより、パルス幅変調制御方式でより高周波域

この発明は上述した問題点をなくすためになされたものであり、従来と同一機種のインバータ装置でより高い出力周波数域においても高調波発生の恐れのないインバータ装置の変調切換制御方式を提供することを目的とする。

[発明の構成]

この発明のインバータ装置のパルス幅変調制御方式は、インバータ装置におけるパルス幅変調制御方式において、出力周波数が所定値より高くなつたとき変調波を三角波からノコギリ波に切換えることを特徴とする。

[実施例]

第1図はこの発明の1実施例を示していて、従来例と異なるのは、三角波発生回路4の外にノコギリ波発生回路13を備え、又、ROM14には、周波数設定器2による設定周波数が所定値よりも高くなつたときに変調波を三角波からノコギリ波に切換えてノコギリ波による変調制御を行うプログラムも含まれている。

従って、低周波帯域においては上述した従来例

まで動作可能となり、しかも高調波発生の恐れもなくなる。

[発明の効果]

以上説明したように、この発明は、パルス幅変調制御における変調波をインバータの使用周波数が所定値より高くなつたとき、三角波からノコギリ波に切換えるようにしたのでマイクロプロセッサにおけるパルス幅変調のための演算が簡単になり、高速に処理できる。これにより、インバータ装置はより高周波域まで動作可能となり、しかも高調波発生を抑制することができる。

4. 図面の簡単な説明

第1図はこの発明の1実施例を示すインバータ装置におけるパルス幅変調制御部のブロック図、第2図は第1図における動作を示すタイムチャート、第3図は変調波に三角波を用いたパルス幅変調制御部のブロック図、第4図は第3図における動作を示すタイムチャートである。

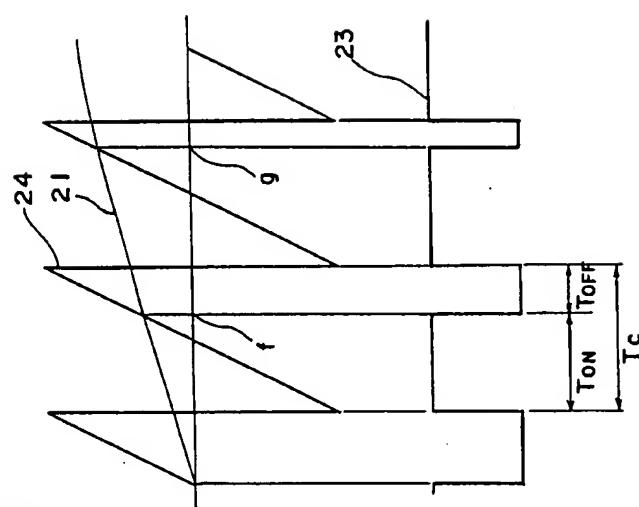
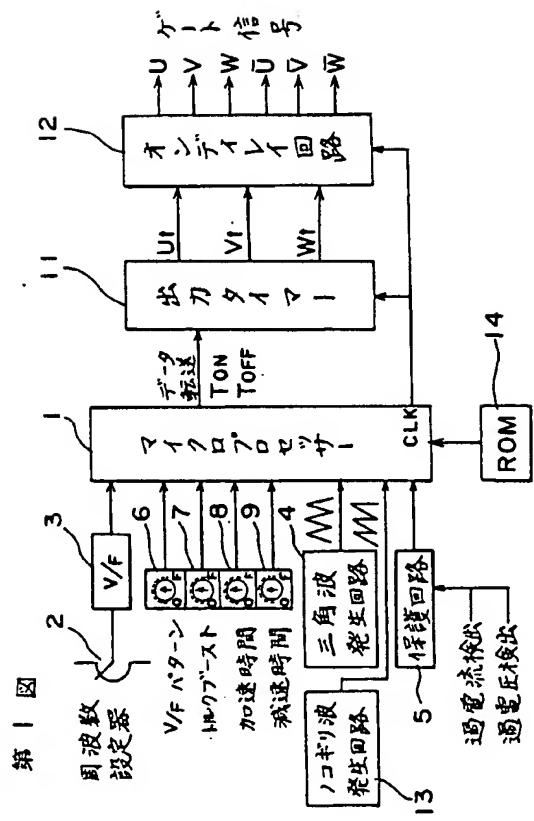
1…マイクロプロセッサ、13…ノコギリ波発生回路、14…ROM、21…正弦波、

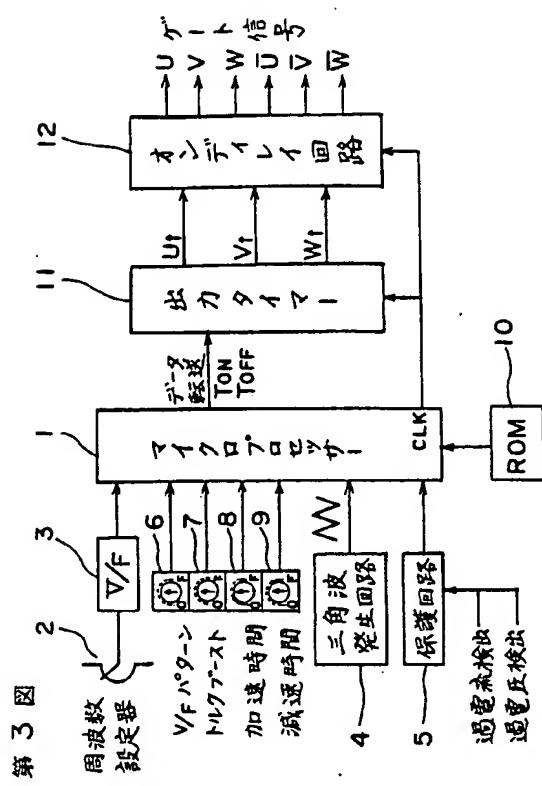
24…ノコギリ波、 T_{on} …パルスオン期間、
 T_{off} …パルスオフ期間、 T_c …変調波周期。

特許出願人 富士電機株式会社

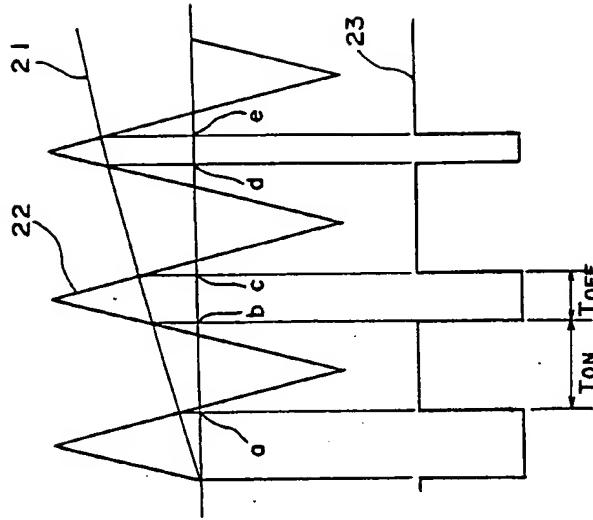
代理人 弁理士 青山 葵 外2名

BEST AVAILABLE COPY





第3図



第4図